2019年7月13日　日本ホスピス緩和ケア協会 年次大会 分科会
「IPOS日本語版を用いた緩和ケアの質の維持・向上」

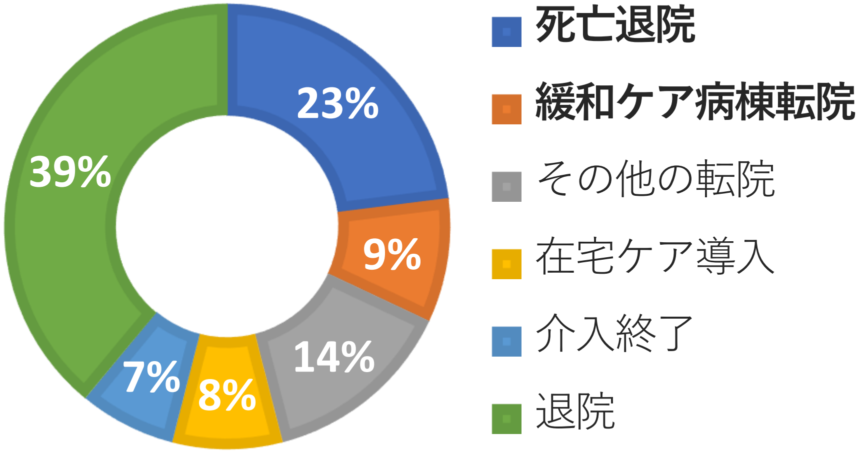
当院におけるIPOS導入と運用

神戸大学医学部附属病院 岸野　恵
木澤 義之 坂下 明大 加藤 めぐみ 松沼 亮 酒見 惇子

緩和ケアチーム介入患者の概要（2018年度実績）

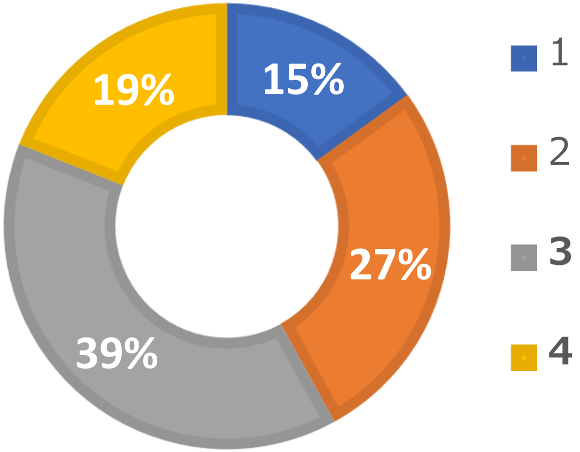
- 平均介入日数　28日
- 非がん 12%　がん 88%
- 転帰

支援導入なく
退院できるのは
半数に満たない

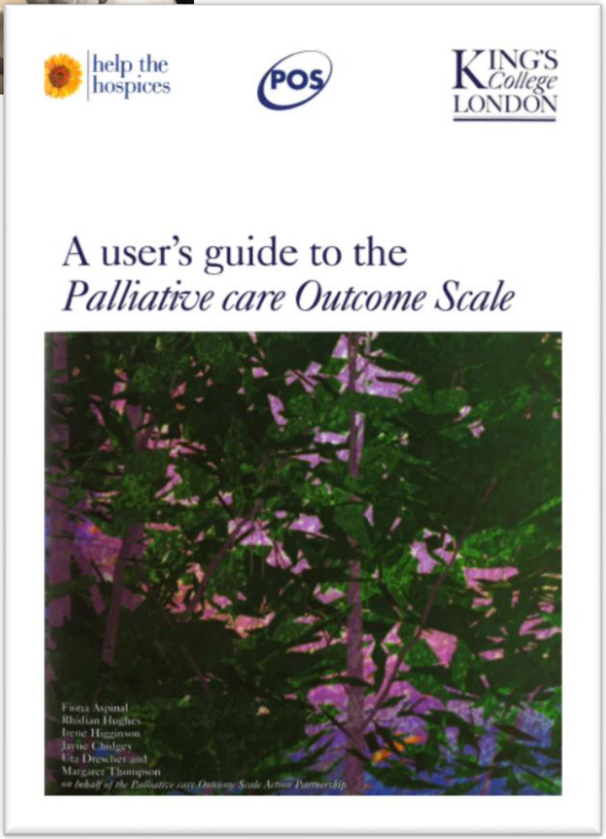


- PS

約6割が
PS3または4



導入までの準備



- マニュアルの確認
- **勉強会の開催**
- 入力フォーマット作成

  回答内容に加えて…
  - 所要時間
  - 医療者評価にした理由

運用方法

外来

受付事務が患者に配布

入院

PCTスタッフが持参

自己評価 or 医療者評価、スタッフアシスト の要否を判断
必要であれば アシスト もしくは その場で評価

テンプレートを活用し
電子カルテに入力

翌日に質問用紙を回収
フォーマットに入力

- 3日versionを使用
- 継続評価は1週間毎

感想

- 自己評価で確認することにより、**医療者評価とのずれ** があることを改めて感じた
- **普段であれば確認しない**項目も、IPOSを活用することで確認し評価ができる
- 思っていたよりは業務負担は少ない

困った点と対応

- 認知機能が低下していると記載が難しい
- 手間を理由に拒否される場合に依頼しにくい

  ⇒ スタッフアシスト or 医療者評価

- 回答内容だけでは意味が理解しにくい

  ⇒ 補足情報を追加する

- 継続評価のタイミングを忘れる

  ⇒ 次回評価日を確認できるようにする

困った点と対応

- Q6/7/8は逆転項目で回答が不正確な可能性がある
  ⇒ 改めて本人に確認する
- 家族に関する項目は、家族の前で尋ねたり家族がアシストしている場合は答えにくい可能性がある
  ⇒ 家族がいないタイミングに改めて確認する
- Information needsについて、外来では受診間隔があくため、正確に評価できないと言われた
- 自己評価にするか医療者評価にするか迷う

有益な点

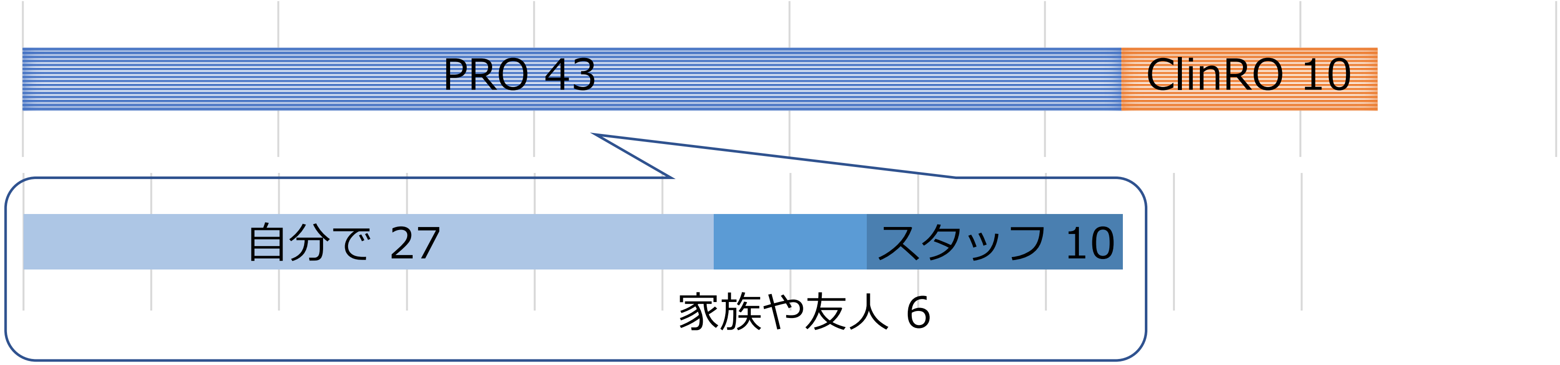
- 患者の気がかりを自由記載欄に書いてもらえるので、問診の参考になる
- **記載内容から具体的な問診に**つなげることができる
- **Unmet needs** を引き出すきっかけとなる
- 書くことが好きな患者の場合、思いや考えをより深く知ることができる
- **コミュニケーションツール** となる

有益な点

- NRSよりVRSの方が記載しやすいという声がある
- 欠損はNRSより少ない
- 自己評価が難しいという情報は、背景にある認知機能低下の可能性を知るきっかけとなる
- 5－10分程度で記載できる
- **包括的に評価**できる

自己評価か医療者評価か？（2018年11－12月に調査した53名のデータ）

- 所要時間：中央値 7分（1－180分）
- 自己評価と医療者評価の割合



- 医療者評価にした理由
  - 身体的苦痛が強く回答が負担
  - 意識レベルの低下
  - 明確な拒否はないが煩わしそう

課題

- 得られた内容を提供する医療・ケアに活かす
- 記録方法を簡便にする
- コンサルティを含め全体で共有できる方法を探す
- 継続評価のもれをどう防ぐか検討する
- 苦痛のスクリーニングとしての有用性を確認する
- 院内で普及させるのであれば教育が大事